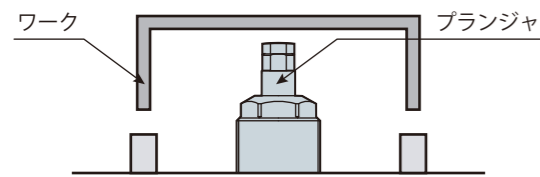


ワークサポート動作説明(スプリングリフトと油圧リフトの機能の違い)

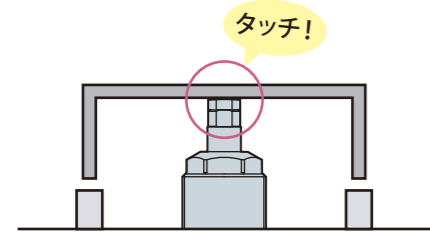
スプリングリフト

model : CST (7MPa フランジ) CSK (7MPa ネジ)
CSX (エア ネジ)

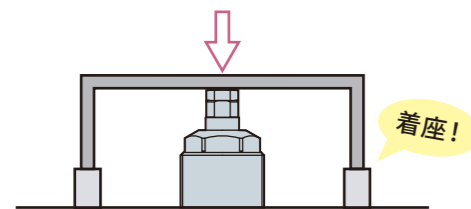
プランジヤはバネ力によりストロークの上限にあります



ワークをセッティングするとプランジヤはワークに接触します

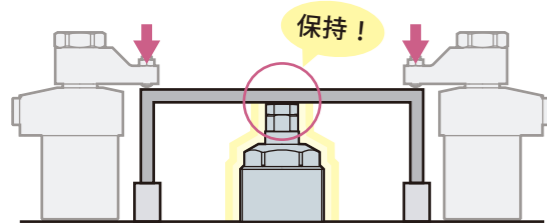


ワークと共にプランジヤは下降します



クランプ動作

ワークを強力に保持します

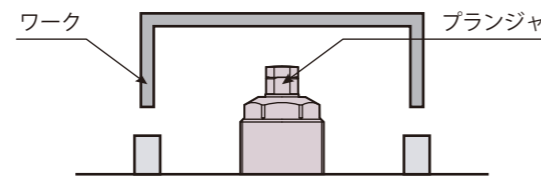


油圧ON

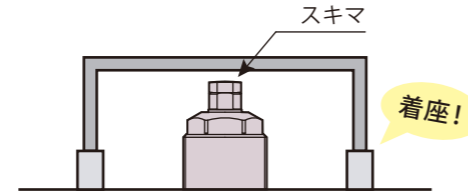
油圧リフト(エアリフト)

model : CSU (7MPa フランジ) CSY (7MPa ネジ 保持力強化)
CSN (7MPa ネジ) CSM (7MPa ネジ ストレートスリーブ)
CSS (エア ネジ)

プランジヤはストロークの下限にあります

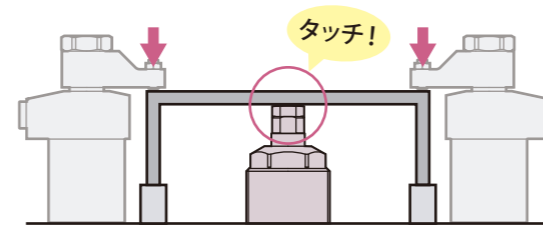


ワークをセッティングするとプランジヤとワークとの間にスキマができます



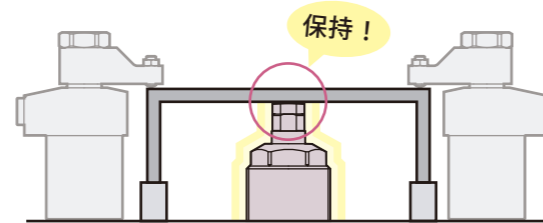
クランプ動作

プランジヤは油圧により上昇しワークに接触します



油圧ON

ワークを強力に保持します



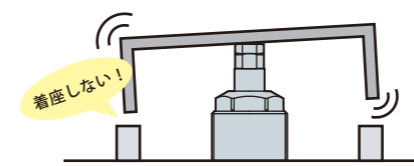
油圧ON

ワークサポートのモデル選定

ワーク重量がワークサポートの総リフトスプリング力より軽い場合
スプリングリフトは適切ではありません

✕ スプリングリフト

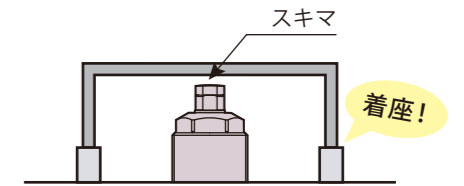
ワークが軽いとワークサポートのバネ力により
プランジヤが下ならず、ワークは着座しません。



※ワークの方が重い場合 → ○
ワークがワークサポートの
総リフト力より重いと
プランジヤは下がり
ワークは着座します。

○ 油圧リフト(エアリフト)

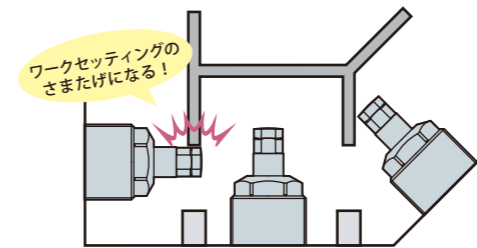
プランジヤが下降端にあるので、
プランジヤとワークとの間にスキマができ、
ワークの重量に関係なく着座します。



ワークサポートを多方面から使用する場合、スプリングリフトは適切ではありません

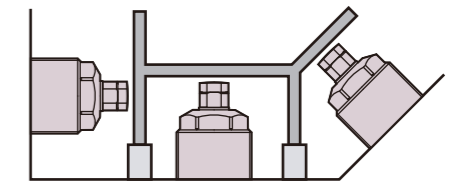
✕ スプリングリフト

プランジヤが上昇しているため、
ワークセッティングのさまたげになります。



○ 油圧リフト(エアリフト)

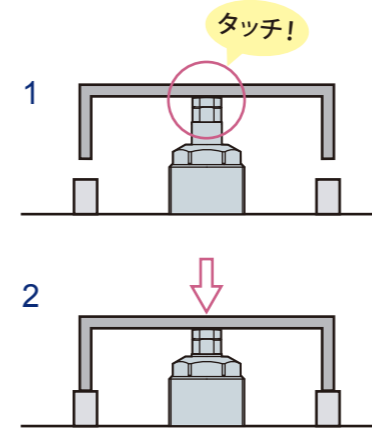
プランジヤが下降しているため、
ワークセッティングのさまたげになりません。



油圧リフト(エアリフト)はフロコンによる流量の調整が必要です

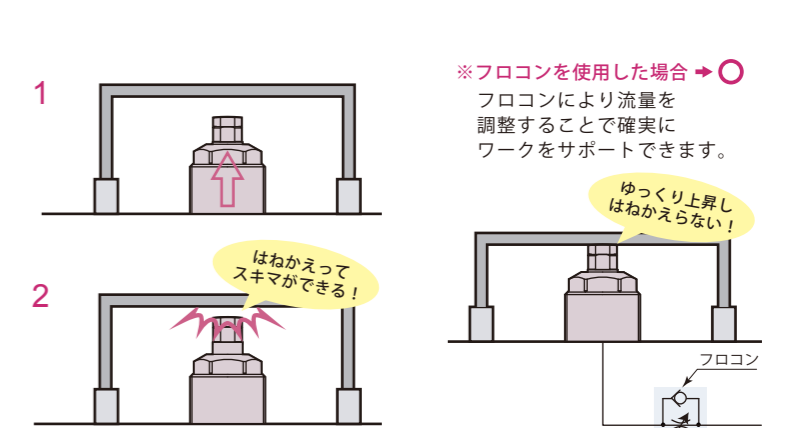
○ スプリングリフト

ワークがプランジヤに接触しながら
セッティングされるので確実に
ワークをサポートできます。



△ 油圧リフト(エアリフト)

プランジヤの上昇スピードが速すぎると、
プランジヤがワークに接触した後はねかえり、
確実にワークをサポートすることができません。



※フロコンを使用した場合 → ○
フロコンにより流量を
調整することで確実に
ワークをサポートできます。